

へいせい ねん ど すいたしちいきじりつしえんきょうぎかい
平成 28 年度 吹田市地域自立支援協議会

せんもんぶかいほうこくしょ
専門部会報告書

ぶかいめい そうだんしえんぶかい
【部会名： 相談支援部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

こめじるしそだんしえんぶかい にゅうようじき しゅうがく しゅうろうとうら い ふ す て ー じ しえんきかんと
※ 相談支援部会では、乳幼児期から就学、就労等ライフステージにおいて、支援機関等が
かわ ること で、本人の情 報が途切れないようにするとともに、関係機関において情 報が共 有さ
れ、一貫した支援が提 供 される仕組み作りをすすめています。

(1)

かだい 課題	ら い ふ す て ー じ かか ほんにん じょうほう と ぎ しえん ライフステージに関わらず、本人の情 報が途切れない支援について
とりく 取組み	こども はったつしえん センターの ちいきしえん センター、指導室との聞き取りを つう 学齢期における しょう 障がい児の ひきつ 引継ぎや支援の あ 在り方について かいせいり 課題整理を おこな た。
ひょうか 評価	しゅうがくまえ がくれいき いっかん そうだんしえんたいせいおよ りょういく してん と い 就学前から学齢期まで一貫した相談支援体制及び、療 育の視点を取り入れた しえん 支援をしていくことが必要である。 ※別紙参 照のこと

(2)

かだい 課題	かぞく がっこうかんけいしゃ そうだんしえんじぎょうしょ じょうほう つた 家族や学校関係者に相談支援事業所の情 報が伝わっていない。
とりく 取組み	こどもむけのリーフレットづくり、スクー ー ルソーシャルワーカーとの こんだんかい 懇談会を じっし 実施。
ひょうか 評価	がっこう しえん おこな たが こうりゅう ひつよう 学校での支援がどのように行われているか、お互いの交 流が必要であること かくにん が確認できた。

2 部会の構成メンバー

機関	団体名	担当者（☆部会長）
とくていそだんしえんじぎょうしょ 特定相談支援事業所	しーど シード	やまぐち ☆山口
	せいかつしえんせんたー 生活支援センターあおぞら	かしわざ 柏木
	しょうがい・著地域生活支援 センターめい	にき 仁木
	じりつしえんせんたー すいた自立支援センター ねばーらんど	むかい 向
	ちいきせいかつしえんせんたー 地域生活支援センター きたせんりいわき 北千里以和貴	いなば 稲葉
しゅうぎょう せいかつしえんせんたー 就 業 ・ 生活支援センター	しゅうぎょう せいかつしえん すいた 就 業 ・ 生活 支援 センター	いのうえ とよた 井上 ・ 豊田
すいたし 吹田市	きかんそうだんしえんせんたー 基幹相談支援センター	かげやま 景山
	しょう ふくししつ 障がい福祉室	かぎ 嘉儀
	せんり にゅーたうん ちいき ほけん 千里 ニュータウン 地域 保健 ふくしせんたー 福祉センター	あたご 愛宕
	い こ たに ちいき ほけん ふくし 亥 の 子 谷 地域 保健 福祉 せんたー センター	のぐち 野口
	うちほんまちちいきほけんふくしせんたー 内本町地域保健福祉センター	あらき 荒木
おおさかふ 大阪府	おおさかふじりつそだんしえんせんたー 大阪府自立相談支援センター	たなか 田中

3 開催状況

つき かい だい かようび
月 1 回 第 2 火曜日

4 今後の予定

ぶかい あ かたけんとう
部会としての在り方検討。

ぶかいめい きょじゅうしえんぶかい
【部会名：居住支援部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

かだい 課題	しょうぼうほうかいせい ぐるーぶほーむ じかほう すぶりんくらーせいびかだい 消防法改正における、グループホームの自火報・スプリンクラー整備課題。
とりく 取組み	ぶかい たんとう き しょうぼう ぶろ じえくと しな いぜん ぐるーぶほーむ たいしょう ○部会で担当を決めて(消防プロジェクト)、市内全グループホーム対象の すぶりんくらー あんけーと おこな かだい せいり おこな スプリンクラー・アンケートを行い、課題の整理を行う。 まる 11 すらっしゅ すい たし しょうぼうしょ ぼう ぼう か こんだん おこな ほしべつし ほうこくしょ ○11 / 8 に吹田市消防署予防課との懇談を行う。★別紙 報告書あり。
ひょうか 評価	まる ぶろ じえくと ちょうさかつどう じったいはあく で き ひじょう よ しょうぼう はな ○プロジェクトや調査活動は実態把握が出来て非常に良かったが、消防との話し あ 合いについては、なかなかきびしいものがあつた。ぐるーぶほーむ たんとうしゃ じかん の縛りがある為、じっくりと時間をかけて準備することがきびしい側面がある。 しば ため じかん じゅんび きび そくめん

(2)

かだい 課題	こうれいき むか かいごほけんかだい ぐるーぶほーむ ちいきせいかつ すす 高齢期を迎えての介護保険課題。グループホーム等の地域生活をどう進めるか。
とりく 取組み	こんねんどちゅう けんがくかい う けんとう すす きび 今年度中には、見学会を受けての検討を進めることがきびしかった。
ひょうか 評価	た おお かだい ちょうせい ふゆば はい かんせんしょう とくべつようごろうじん ほーむ 他の大きな課題の調整や、冬場に入ると感染症もあるので特別養護老人ホーム けんがく きび けんとう ひつよう 見学もきびしいので、あまりあせずにじっくりと検討していく必要。

(3)

かだい 課題	ぐるーぶほーむ ふ ため しえんしよくいん かくほ いくせい グループホームを増やす為にも、支援職員をどう確保して育成していくか。
とりく 取組み	おな こんねんどちゅう けんとう で き 同じく、今年度中の検討が出来ず。
ひょうか 評価	らいねんど よ じ き しゅうしよくせ みなー けいかく おこな 来年度の良い時期に就職セミナーを計画して行っていく。

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者（☆部会長）
市内全グループホーム担当	18事業所	毎回、12-15名程の参加
グループホーム	さつき福祉会ホーム事務局	☆世話人代表 伊藤成康
相談支援・グループホーム	ふくふく福祉会ネバーランド	世話人 足立雅美
グループホーム	のぞみ福祉会エスペランサ	世話人 なかやまきょうこ 中山恭子
相談支援	さつき福祉会あおぞら	世話人 にしざわとみこ 西沢富子
グループホーム	えぬびーおーほうじん に げ ら N P O 法人ニゲラ	世話人 みずたにみつ き 水谷充規

3 開催状況

- 第31回部会 2016年 5月27日 消防課題の検討と消防課題プロジェクトの確認
- 第32回部会 2016年 7月22日 消防アンケートの確認
- 第33回部会 2016年 9月30日 消防アンケートの中間まとめと予防課懇談の内容検討
- 吹田市消防署予防課との懇談会 11月8日
- 第34回部会 2016年11月18日 地域生活拠点「みんなのき」見学
- 第35回部会 2016年 1月13日 消防スプリンクラー課題と対応策について
- 第36回部会 2016年 3月24日予定 「地域の単身生活者の生活実態報告」を受けて検討

4 今後の予定(当面)

- 引き続き、スプリンクラー問題を検討進めていく。しかし、行政(市長・福祉部・消防・議会)への直接アプローチについては「福祉と医療を進める会」と「グループホーム連絡会」が担う。
- 3月はスプリンクラー課題と単身生活者課題の検討のスタート(国の自立生活支援事業の検討)

まる5がつ こうれいかだい とくべつようごろうじん ほ ー む こうじゅえん けんがく かいごほけん かだいけんとう で けんとうかだい
○5月に高齢課題で、特別養護老人ホーム「高寿園」見学と介護保険の課題検討。ここで出てきた検討課題

せい か こんご こうれいぶろじえくと ほんえい
や成果は、今後、「高齢プロジェクト」に反映させていく。

まる7がつ く す た っ ふ しゅうしょくせ み な ー お よ す た っ ふ けんしゅうかい かいさいで き じゅんび
○7月に暮らしのスタッフの就 職セミナー及びスタッフ研修会を開催出来るよう準備していく。

ぶかいめい にっちゅうかつどうぶかい
【部会名：日中活動部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

にっちゅうかつどうぶかい こうちんけんとうぶかい こうちんこうじょう かん かだいけんとう おこな
日中活動部会は、これまで工賃検討部会として工賃向 上に関する課題検討を行ってきたが、

じぎょうしょ じゅんさんせいひん せいさん かだい はんろかいたく はんばいそくしんなど かだい けんとう なか
事業所の授産製品の生産にかかわる課題、販路開拓、販売促進等にかかる課題を検討してきた中

た にっちゅうかつどう かだい み かく こうはん けんとう
で、その他の日中活動における課題が見え隠れしていたものを広範にとらえて検討するため、

にっちゅうかつどうぶかい めいしょう あらた
日中活動部会と名称を改めたものである。

(1)

かだい 課題	これまで事業所内で抱えていた日中活動事業所内の課題を洗い出し、整理する
とりく 取組み	がつ がつ かだい ちゅうしゅつ せいり おこな 4月、6月に課題を抽出し、整理を行った。 がつ かくじぎょうしょ じぜん かだい こうちん せいさん りようしゃ 4月 各事業所から事前に課題をまとめてきたものを「工賃・生産」「利用者 しえん た せいり 支援」「その他」に整理した。 がつ がつ おこな ちょうさ せいり 6月 4月に行った調査だけでは整理できなかったもので、更に具体的な課題と かくじ ちゅうしゅつ せいり して各自より抽出、整理した。 かんきょうせつび しょくいんかん こ み ゅ に け ー し ょ ん しょくいん いくせい せいど しゅうろう 「環境設備」「職員間コミュニケーション」「職員の育成」「制度」「就労」 しょくいんしょうぐう りようしゃ こうれいか さぎょうこうちんちん りようしゃしえん よ か しょくいん しえん 「職員処遇」「利用者の高齢化」「作業工賃」「利用者支援」「余暇」「職員の支援」 ぶんるい に分類した。
ひょうか 評価	しょうがいしゃじりつしえんほう げん しょうがいしゃそうごうしえんほう しゅうろう じりつ めん きょうか 障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）により、「就労・自立」面の強化 はか しゅうろうしゃすう こうちんこうじょう たっせい すうじ せいか あらわ めん が図られ、就労者数や工賃向上の達成など、数字が成果として現れる面が ひょうか けいこう つよ げんじょう ひろ かだい 評価される傾向が強まってきた現状から、これまで拾えていなかった課題をよ うやく せいり はじ うやく整理し始めることができた。

	しかし、課題が多岐にわたること、事業所の特色が違う中で統一した見解を導き出すことへの困難さ、など一事業所の責任・力量だけでは片づけられない課題をどのように前に進めていくのかの難しさも同時に明らかになった。
--	---

(2)

かだい 課題	りようしゃ こうれいか 利用者の高齢化について
とりく 取組み	9月 利用者の高齢化について拡大学習会 工房ヒューマンから 65歳以上の利用者を迎えて、高齢期を迎えて以降に作業所を利用する目的などの話を伺った。 11月 介護保険について基礎知識拡大学習会 介護保険に関する基礎知識の学習会を行った。
ひょうか 評価	9月の学習会では、自身が希望すれば、65歳を超えていようとも生きがいをもって働きたいとされる当事者の声を聞くことができた。「障害」から「介護保険」への移行が本人の希望を無視した機械的なものであっては困るが、白か黒かではなく、生活面では介護保険を活用するなど柔軟な活用が望ましい。 ちょうど自立支援協議会で 65歳プロジェクトが始まるので、今後はプロジェクトとリンクしながら進めていくことになった。

(3)

かだい 課題	りようしゃしえん 利用者支援について
とりく 取組み	12月 個別支援計画についての情報交換 利用者支援については、課題を抽出した中でも特に意見が多かった項目 とりかかりとして利用者への支援の根幹となる個別支援計画にスポットを当てて

	じょうほうこうかん おこな 情報交換から行った。
ひょうか 評価	りようしゃ しえん ありかた めいき こべつしえんけいかくしょ ようしき こてい 利用者への支援の在り方を明記する個別支援計画書は、様式が固定されていないた め、事業所によっては独自に改良を加えているところが多く、特色があるのが分か り参考になった。

2 部会の構成メンバー

き かん 機 関	だんたいめい 団 体 名	たんとうしゃ ぶかいちよう 担 当 者 (☆部 会 長)
しょう しやじぎようしよ 障がい者事業所	だい ひゅーまん 第1ヒューマン	ふじい こうだ ☆藤井・香田
	だい ひゅーまん 第2ヒューマン	なかむら 中村
	こうぼう ひゅーまん 工房ヒューマン	おおみや 大宮
	しょう しやさぎようしよ さつき 障がい者作業所	くぼ 久保
	だい しょう しやさぎようしよ 第2さつき 障がい者作業所	まつばら 松原
	しゅうろうしえん せんたー 就労支援センターみち	こんどう 近藤
	わーくせんたー ワークセンターくすのき	よしだ 吉田
	わーど ぶくぶくワールド	さかもと 坂本
	こみゆにていーきゃんぱす コミュニティーキャンパス	はまだ 濱田
	ぶるーりぼん ブルーリボン・きらめき	しもごおり ぬのはら 下郡・布原
	さふらん サフラン	ほんぐう 本宮
	ほほえみ	よこた 横田
	ゆう 遊ゆうかぼちやのお家	やまぐち 山口
しょう しやじぎゆさんせいひんじようせつてんじはんばいてん 障がい者授産製品常設展示販売店	にげら Nigella	ささがわ 笹川
	はっぴーあんどすまいる HAPPY & SMILE	ほあし 帆足

3 開催状況

ていれいかい
定例会 : まいつき だい げつようびかいさい
毎月 第1月曜日開催

じむきよくかいぎ
事務局会議 : まいつき かいかいさい
毎月 1回開催

4 今後の予定

りようしゃしえん けんとう けいぞく
利用者支援についての検討を継続していく

ご ちゅうしゆつ かだい もと けんとう すず
その後、抽出した課題に基づいて検討を進める

ぶかいめい いりようかだ いけんとうぶかい
【部会名：医療課題検討部会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

かだい 課題	にゅういんじこみゅにけーしょんじぎょう 入院時コミュニケーション事業について
とりく 取組み	ぶかいない ねんど ねんど がつまつてん しきゅう いた けーす 部会内において 27年度と 28年度の 7月末時点で支給に至った 7ケースについて けんしょう けんこう きてん しえんじかん みじか おも つ そ 検証をおこなう。傾向としてはついている期間、支援時間も 短く、主な付き添い しゃ ぐるーぶ ほーむ しよくいん おお りようしゃ しゅべつ りょういく かた おお 者はグループホームの職員が多い。利用者の種別は療育の方が多かった。 いりようがわ いけん さんこう じょうほう ていきょう かーど すいたししょう しゃにゅういん じ 医療側からの意見を参考に情報提供カード（吹田市障がい者入院時 こみゅにけーしょん しえんじぎょうけんよう かくてい ぶかい りようしょう コミュニケーション支援事業兼用）のかたちが確定したことを部会からの了承 え けんよう きさい とお にゅういん じこみゅにけーしょん しえんじぎょう を得る。兼用と記載している通り、入院時コミュニケーション支援事業のみの しょう しない ふだん きょうつうようしき ひろ りよう 使用ではなく、市内において普段からの共通様式として広めていきたいため、利用 おお きょじゅうしえんぶかい はいふ が多かった居住支援部会にまずは配布している。
ひょうか 評価	じぎょう たいしょうしゃ ふくし さーびす つな かた たいしょうがい 事業の対象者は福祉サービスに繋がっている方になるが、そうでない対象外の ひと けんとう ひ つづ おこな ひつようせい さーびす つな 人々への検討も引き続き行う必要性がある。またサービスに繋がっていても へる ばーじぎょうしょ さぎょうしょなど しよくいん つ そ さ むずか はなし ヘルパー事業所や作業所等からは職員を付き添いに割くことが難しいとの話 もともと も だ じぎょうしょ ほとん もあがっている。しかし、元々がボランティアで持ち出していた事業所の補填と じぎょう りよう びょういんがわ りかいそくしん もくてき あたら じぎょう 事業の利用のあった病院側への理解促進が目的であるため、新しく事業をつか ぶぶん こみゅにけーしょん しえん もくてき いづら部分はある。またコミュニケーション支援を目的としているが、 ばーそなる ぶぶん かいごぶぶん ようきゅう つよ にゅういんにつう かいにゅうにつう パーソナル部分や介護部分の要求も強くある。入院日数・介入日数ではあるが、 せいきゅう きかん じかん じっさい つ そ じかん さ い おお で 請求にあげている期間・時間と実際に付き添っている時間には差異が大きく出て

	かのうせい いる可能性がある。 あらかじめの支給がないため、つかえるのかわかりづらく、利用者・事業所に たい せつめい むずか ぶぶん しょうち じゅうぶん 対しての説明が 難 しい部分がある。そのため、周知をまだ十分にはおこなえていない。
--	---

(2)

かだい 課題	こ ころ い じゅうようせい 子どもの頃からのかかりつけ医の重要性について
とりく 取組み	そうだん しえん ぶかい と く と ぎ しえん かさ ぶぶん 相談支援部会の取り組みとして途切れない支援と重なる部分があり、 いりようかだいけんとうぶかい いりようがわ しょう しゃ りかい と く いりよう 医療課題検討部会としては医療側への障がい者への理解の取り組みと医療と ふくし れんけい と く みなお 福祉が連携して取り組めることの見直しをおこなっている。 しょう しえんくぶん にんていちょうきよう い し いけんしょ いらい せいしんか しゅうちゅう また 障がい支援区分の認定調査用医師の意見書の依頼が精神科に 集 中 して かのうせい たか ねんど い ししいけんしよきさいじょうきよう せいきゅうべーす ちょうさけつか いる可能性が高いため、27年度の医師意見書記載状況の請求ベースの調査結果 かくにん かだい みなお かいけつさく けんとうちゅう を確認し、課題の見直しと解決策を検討中。
ひょうか 評価	ぶかいほつそくまえ あん けー と けつか い も かいとう おお とく 部会発足前のアンケート結果にはかかりつけ医を持っていない回答が多く、特に りょういく かた いりよう はな ちい ころ な はじ だいじ 療育の方は医療と離れがちになりやすい。小さい頃から慣れ始めることが大事で あり、かぞく はっしん ひつよう かぞく ふくしきーびす かた あり、家族への発信は必要である。けれど、家族も福祉サービスのつかい方をあま し しょう けんこう とし じゅしん けいぞく り知らないこと・障がいがあるとはいえ、健康な時にわざわざ受診を継続してい わづら くらい ふさいくる なか たんとうぶしよ たんとうしゃ とーたる そうだん く 煩わしさやライフサイクルの中で担当部署や担当者がかわり、トータルで相談 できるところがなく、かぞく けあ じゅうぶん など もんだい できるところがなく、家族ケアも十分でない等の問題もある。 こんご きょういくがわ いりようがわ から かぞく あぶろーち ほうほう けんとう 今後は教育側と医療側を絡めた家族へのアプローチ方法がないかも検討してい く。

(3)

かだい 課題	びょういんがわ しょう しゃり かい そくしん 病院側への障がい者理解への促進について
とりく 取組み	さいせいかいすいたびょういん と く ちいきほうかつ かた きゅうきゅう がいらい じゅしん 済生会吹田病院の取り組みとして、地域包括の方に救急・外来・受診からの にゅういん けいい いけんこうかん まじ など びょういん し きかい ねん かい 入院までの経緯や意見交換を交える等、病院を知ってもらう機会として年に3回 ほどいんない が い ど と く しょう ばん へいせい29ねん2がつ 程院内のガイドがおこなわれている。その取り組みを障がい版として平成29年2月 におこなうこととなった。取り組みの内容について済生会吹田病院と打ち合わせ ちゅう 中である。
ひょうか 評価	びょういんがわ じょうたい わる しんさつ こ ぎもん も 病院側も状態が悪くなるまでなぜ診察に来ないかの疑問を持っている。けれど、 しょう も つ かた なか びょういん い いや じじょう はあまり知られていな 障がいを持つ方の中には病院に行くのもイヤという事情はあまり知られていな しょう たい ふ きかい すく せつ い。また障がいに対して触れる機会が少ないためか、どう接していいかがわから い めーじ せんこう う い たい ふあん ふく ずにイメージばかりが先行してしまい、受け入れに対しての不安が膨らんでいる じょうたい ぶかいこうせいいん きょうりよく え さいせいかいすいたびょういん 状態である。部会構成員の協力を得ながら、まずは済生会吹田病院をかわきり こんご いりょうじゅうじしゃ りかいそくしん すす に今後も医療従事者への理解促進を進めていく。 いりょうがわ こんご しょう も とうじしゃ かた びょういん また医療側だけでなく、今後は障がいを持つ当事者の方にも病院がこわいところ ではないことをわかってもらえるような機会をつくる工夫も考えていく必要があ る。

2 部会の構成メンバー

機 関	団体名	担当者（☆部会長）
医療機関	吹田市医師会	☆角谷 岳朗
	吹田市歯科医師会	千原 耕治
	済生会吹田病院	戸川 啓史
		川口 真里子
		尾上 淳子
	済生会千里病院	岩間 のりこ
	大阪大学医学部附属病院	友國 りょうこ
		福森 ゆうじ
	吹田市民病院	さいとう けんじ
	吹田徳洲会病院	なかお しゅんすけ
教育・児童機関	吹田支援学校	あおき ひろし
大阪府	吹田保健所	かどた しげお
吹田市	吹田市障がい福祉室	にしもと まき
ワーキングメンバー	エスペランサ	なかやま きょうこ
	さつき福祉会	いとう なりやす
	ヘルパーステーションMAYO	にき えみ
	ねばーらんど	あだち まさみ

	きたせんり い わ き 北千里以和貴	のぶた りょう 信田 涼
	すいたししょう ふくしつ 吹田市 障がい福祉室	かげやま あきひろ 景山 昭宏

3 開催状況

ねん かい だい すいようび
年4回 第1水曜日

4 今後の予定

じぎょう じょうほうていきょう か ー ど しゅうちほうほう けんとう
・事業と情報提供カードの周知方法の検討

じぎょう ぶんせき けんしょう
・事業の分析・検証

かぞく い じゅうようせい と あぶろーちほうほう けんとう
・家族へかかりつけ医の重要性を説くアプローチ方法の検討

じぎょう たいしょうがい ひと しえん けんとう
・事業の対象外となってしまう人たちへの支援をどうしていくかの検討

いけんしょさくせい きょうりょくい ふ と く ほうほう けんとう
・意見書作成の協力医を増やしていくための取り組み方法の検討

ぶかいめい とうじしゃぶかいじゅんぴかい
【部会名：当事者部会準備会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

かだい 課題	たよう しょうがいとうじしゃ ぶかいさんかく そくしん 多様な障害当事者の部会参画を促進する
とりく 取組み	こうりゅうかい て きがる ばーべきゅうーたいかい 交流会 手ぶらで気軽にバーベキュー大会
ひょうか 評価	きがる きも さんか ふんいき こころ いべんとおこな 気軽な気持ちで参加しやすい雰囲気を感じたイベント行ったことで、しゃべり場とはま ちが ちが 違う空気感で交流することができた。

(2)

かだい 課題	にちじょうせいかつぜんばん じょうほうこうかん 日常生活全般における情報交換
とりく 取組み	しょうがい ば 障害のあるひとのしゃべり場
ひょうか 評価	しょう とうじしゃ ちいきせいかつ ちよくめん もんだい かだい かいけつ む 障がい当事者が地域生活で直面するさまざまな問題や課題の解決に向けた じょうほうこうかん おこな すいた おこな いべんと しょうかい せんきょじ とうひょう くふう 情報交換を行った。吹田で行われるイベントの紹介・選挙時の投票での工夫について りれーとーくけいしき いけん だ あ リレートーク形式で意見を出し合った。

(3)

かだい 課題	とうじしゃ してん た ばりあふりー 当事者の視点に立ったバリアフリーなまちづくり
とりく 取組み	みんなのまちのしらべ隊
ひょうか 評価	ぎょうせい みんかんじぎょうしょ ばりあふりー ふきゅう けいはつ かが しょう しゅべつ こと ひつよう はいりょ 行政も民間事業所もバリアフリーの普及・啓発を掲げるが、障がい種別が異なれば必要な配慮 かわ こんかい しょうがい げん ちちょうさおよ いけんこうかん おお ぶかい あら が変わってくる。今回は3障害で現地調査及び意見交換ができたことは大きく、部会としても新 たなバリアの発見にもつながった。

2 部会の構成メンバー ☆は会長

ほしあかお いけだ ほそだ うと はなもと ふくにし やなぎた やまぐち ふくしかいしーど かげやま しょう ふくししつ
☆赤尾・池田・細田・宇都・波那本・福西・柳田・山口(のぞみ福祉会シード)・景山(障がい福祉室)

3 かいさいじょうきょう 開催状況

まいつきだい もくようび
毎月第3木曜日

4 こんご よてい 今後の予定

へいせい ねん ど ぜんたい けんしゅうかい しゅかん
平成28年度全体研修会主管

ぶかいめい せいしんしょう しゃしえんぶかいじゅんぴかい
【部会名：精神障がい者支援部会準備会】

1 これまで検討した課題への取り組みについて

(1)

かだい 課題	① じっさい せいしんしょう しや つか しげん すく 実際に精神障がい者の使える資源が少ないこと、また福祉サービスの じょうほう とど ひつよう さーびす つか ばあい おお 情報が届いていないことで、必要であるのにサービスを使えない場合が多 いことについての改善 かいぜん ② せいしんしょう とくせい しえん こんなん かん じぎょうしゃ おお 精神障がいの特性から支援が困難であると感じる事業者が多いことの かいぜん 改善
もくてき 目的	そうだんしえん じぎょうしょ きやたくかい ご じぎょうしょ いりようけい さーびす くりにつくとう ききと 相談支援事業所、居宅介護事業所、医療系サービス、クリニック等に聞き取り を じっし せいしんしょう しや てきせつ さーびす じょうほう つたえ えんかつ しえん 実施し、精神障がい者により適切なサービスの情報を伝え、円滑な支援が おこな ぶかい と く いっしょ かんが ていあん 行えるよう部会で取り組むべきことを一緒に考えてもらえるよう提案。
とりく 取組み	ふくし さーびす じぎょうしゃ じしん りかい ふか しえん しつ あ けんしゅう 福祉サービスの事業者は自身の理解を深め支援の質を上げるために研修が ひつよう かん おお いりよう れんけい とく かだい かん 必要だと感じているところが多かった。また、医療との連携が特に課題だと感じ ているようだったが、いりよう がわ すこ じぶん かつよう 医療の側でももう少し自分たちを活用してもらうために どうしたらよいかという思いがあることもわかった。そこで、ぶかい ふくし 医療の連携を かんが とう じ けんしゅう せんもんしよくむ おこな 考えることと同時に研修など専門職向けのものを行うために けんとう ゆうせん どうするか検討することを優先することになった。

(2)

かだい 課題	せいしんほけんふくしね　　つ　　と　　わ　　ー　　く　　かいぎ　　ぶかい　　い　　ち　　づ　　け　　かだい　　せいり 精神保健福祉ネットワーク会議と部会の位置づけ、課題の整理
もくてき 目的	せいしんほけんふくしね　　つ　　と　　わ　　ー　　く　　かいぎ　　ぶかい　　か　　か　　せいしんしょう 精神保健福祉ネットワーク会議が部会を兼ねるのではなく、これまで精神障が い　　しゃしえん　　けいけん　　すく　　じぎょうしょ　　か　　だ　　い　　か　　い　　け　　つ　　ひ　　つ　　よう　　おも　　き　　かん　　じぎょうしょう い者支援の経験が少ない事業所や、課題解決に必要なだと思われる機関、事業所等

	はい にはし てきせい にんずう かいぎ おこな に入ってもらふこと、話をしやすくするための適正な人数で会議を行 うこと かんが わー きん ぐ ちー む ちゅうしん かいけつ かだい ふれきしぶる を 考 え、ワーキングチームを中心に解決すべき課題ごとにフレキシブルに かんけいきかん しゅうごう はな あ かんが 関係機関が集合して話し合うことを考えている。 また、ネットワーク会議は今までの連携を継続し、より専門的な話し合いので きる場として、主に地域移行とそれにまつわる課題を中心に上げていくこ とを念頭に、部会とは別に行 うこととした。 ただし、課題解決にあたってネットワーク会議の構成だけで十分話し合える時 には、ネットワーク会議をその課題解決のための部会のチームとすることも かのう とく こんねんど かだいけんとうけいかく しゃかいできにゅういん かいしょう 可能とする。特に、今年度の課題検討計画にあげた「③社会的入院の解消と たいいん ちいき いっぱんしみん せいしんしょう しゃりかいそくしん 退院するための地域づくり、一般市民への精神障がい者理解促進」については ねっ と わー く かいぎ けんとう かだい ひとつ ネットワーク会議において検討する課題の一つとなりうる。
とりく 取組み	ねっ と わー く かいぎ ひら ネットワーク会議が開かれるたびに準備会の報告を行 い部会との位置づけと きょうりょくたいせい はな あ 協力体制について話し合った。

(3)

かだい 課題	たしよくしゅれんけい こーでいねー と やくわり はた すきかんそうだんしえんせんたー ④多職種連携におけるコーディネートの役割を果たす基幹相談支援センターの じゅうじつ 充 実
もくてき 目的	こんご たいせいづくり ぶかい とく せいしんしょう しゃしえん きかん 今後も体制づくり（この部会では特に精神障がい者支援についての基幹の やくわり いけん だせるば ぶかい かつよう 役割）について意見を出せる場に部会を活用する。
とりく 取組み	すいたし そうだんしえんたいせいじたい か どうこう み きかん 吹田市の相談支援体制自体が変わろうとしている。その動向も見ながら基幹 そうだんしえんせんたー やくわり はな あ ぶかい 相談支援センターの役割について話し合える部会にするには、どんな工夫が

ひつよう 必要かを検討。

2 部会の構成メンバー

(案) 医療機関 (病院・診療所、クリニック・訪問看護・ACT)、相談支援 (相談支援事業所・地域

活動支援センター)、障害福祉サービス (居宅介護事業所・共同生活援助・生活介護・就労継続

B型・自立訓練・就労移行・就業・生活支援センター・短期入所・) 社会福祉協議会、大阪府

吹田保健所、障がい当事者、ハローワーク

※すでに部会のある障害福祉サービス、障がい当事者については部会から代表を選任してもら

う形で依頼した。ほぼ了解が得られた。

3 開催状況

ネットワーク会議のワーキング会議を3回に1回準備会として継続中。

9月16日 (金) 医療機関からの聞き取りについてのまとめ。

部会の構成について検討。

ネットワーク会議と部会との関係を整理。

12月2日 (金) 部会の構成機関で了解をもらったところ、まだのところを整理。

自立支援協議会への報告についてまとめる。

この部会から設置要領を作成。(別紙)

4 今後の予定

3月17日 (金) 第1回の部会について日時、議案の検討。

3.4 いずれも 10:00~12:00 吹田保健所にて開催

ぶかいめい しゅうろうし えんぶかい じゅんぴかい
【部会名：就 労 支 援 部 会 準 備 会】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

かだい 課題	しゅうしょくしゃ だ あたら りようしゃ はい 就 職 者を出しても新 しい利用者が入ってこない
とりく 取組み	しないしゅうろういこうし えんじぎょうしょ ごどう 市内就 労 移行支援事業所の合同パンフ“わーくさぽーと吹田”を作成し市役所 ふく しない こうきょうしせつ いたくそうだんし えんじぎょうしょ けいかくそうだんじぎょうしょなど はいち 含め市内の公 共施設や委託相談支援事業所、計画相談事業所等に配置してもら い「就 職 を希望する障 害のある方に配布・案内してもら
ひょうか 評価	じかい うんえいいいんかい ぜんたいかい 次回の運営委員会および全体会で“わーくさぽーと吹田”を配布、内容に問題が なければ市役所含め市内の公 共施設や委託相談支援事業所、計画相談事業所等 はいち に配置してもら

2 部会の構成メンバー

しゅうろういこうし えんじぎょうしょ
【就 労 移行支援事業所】

- しゃかいふくしほうじん おおさかししょうがいしゃふくし すぽーつきょうかい おおさかしりつせんりさぎょうしどうしょ
・社会福祉法人 大阪市障 害者福祉・スポーツ協 会：大阪市立千里作業指導所
- しゃかいふくしほうじん みゆにていきゃんぱす こみきゃんしゅうろうそうごうせんたー
・社会福祉法人 コミュニティキャンパス：コミキャン就 労総合センター
- しゃかいふくしほうじん ふくふくふくしゃい しゅうろういこうし えんせんたーぱす
・社会福祉法人 ふくふく福祉会：就 労 移行支援センターpass
- しゃかいふくしほうじん さつきふくしゃい しゅうろうし えんせんたー
・社会福祉法人 さつき福祉会：就 労 支援センターみち
- かぶしきがいしゃ ていだーぐりーん じょぶとれーにんぐせんたーおおさか
・株式会社 ティダ・グリーン：ジョブトレーニングセンターOSAKA
- かぶしきがいしゃ せいえい すいたせいしょうえん
・株式会社 誠栄：吹田誠 翔園
- しゃかいふくしほうじん のぞみふくしゃい きょうどうさぎょうしょ
・社会福祉法人 のぞみ福祉会：のぞみ共 同作業所

【就^{しゅう}労^{ろう}相談^{そうだん}支援^{しえん}機関^{きかん}】

- ・すいた^{しょう}障^{しょう}がい者^{しゃ}就^{しゅう}業^{ぎょう}・生活^{せい}支援^{かつしえん}センター^{せんたー} Sutable^{すーたぶる}

3 開催^{かいさい}状^{じょう}況^{きょう}

- ・月例^{げつれい}での開催^{かいさい}だが、集^{あつ}まりが悪^{わる}くなっている

4 今後^{こんご}の予定^{よてい}

ぶかいめい つうがくしえんけんとうぶろじえくと
【部会名：通学支援検討プロジェクト】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

かだい 課題	つうがくしえん ひつようせいとう じつたい はあく せいど ひつようせいおよ たいしょう けんとう 通学支援の必要性等、実態を把握し、制度の必要性及び対象について検討して いく。
とりく 取組み	① へいせい ねん がつ がつ 平成28年4月～5月 すいたしえんがっこう せつつしえんがっこう みのおしえんがっこう かぞく たいしょう こ 吹田支援学校・摂津支援学校・箕面支援学校の家族を対象に「子どもたちの つうがくしえんとう かか 通学支援等に関わるアンケートを実施。(回収状況：吹田支援学校222名 中 めい せつつしえんがっこう めいちゅう めい みのおしえんがっこう めい 178名、摂津支援学校84名 中 68名、箕面支援学校31名) ② へいせい ねん がつ がつ 平成28年6月～7月 ちいき しょうがっこう かん しえんがっきゅう ざいせき ほごしやとう つきそ ひつよう 地域の小学校に関しては、支援学級に在籍しながら、保護者等の付添いが必要 な児童・生徒を対象に「支援学級在籍児童・生徒に係わる登下校時の付添い じどう せいと たいしょう しえんがっきゅうざいせきじどう せいと かか とうげこうじ つきそ 調査」を実施。(回収状況92名) ※教職員対象の調査 ちょうさ じつし かいしゅうじょうきょう めい きょうしよくんたいしょう ちょうさ ③ へいせい ねん がつ 12がつ 平成28年8月～12月 こ つうがくしえんとう かか あんけーと およ しえんがっきゅうざいせきじどう せいと かか 「子ども通学支援等に関わるアンケート」及び「支援学級在籍児童・生徒に係わ とうげこうじ つきそ ちょうさ しゅうけい おこな つうがくしえん たい にーず はあく かだい る登下校時の付添い調査」の集計を行い、通学支援に対するニーズ把握、課題 のせいり ほうこうせい かくにん の整理、方向性を確認。 ④ へいせい ねん がつ にちすいたしじりつ しえんきょうぎかい いうんえいいんかい どうねん がつ にちすいたしじりつ 平成28年1月23日吹田市自立支援協議会運営委員会、同年2月6日吹田市自立 しえんきょうぎかい ぜんたいかい つうがくしえん いってい ていあん 支援協議会全体会で、通学支援に対する一定の提案をする。 ※ひ つづ ぎろん ないよう ふく ていあん おこな ※引き続き、議論していく内容も含めて提案を行う。
ひょうか 評価	あんけーと ちょうさ もと つうがくしえんけんとうぶろじえくと ぎろん つうがくしえん ともな アンケートや調査を基に通学支援検討プロジェクトで議論し、通学支援に伴う

	ヘルパー派遣の提案を一定まとめることができた。（別紙の提案資料参照）ただ、 医療的ケアを伴う児童の通学支援については、車両の確保や支援者の資格 （看護師等医療的ケアが可能な支援者に限る）などの大きな課題があるため、他 市町村の支援状況等を把握した上で、再度通学支援検討プロジェクトで検討して いく必要がある。
--	---

2 部会の構成メンバー

生活支援センターあおぞら	柏木	吹田支援学校	わかまつ 若松
地域生活支援センターめい	仁木	箕面支援学校	ふじしま 藤嶋
地域生活支援センターめい	おおにし 大西	しどうしつ 指導室	すぎやま 杉山
ケアステーションふくちゃん	ふくにし 福西	しどうしつ 指導室	まつもと 松本
コスモス吹田	ふじの 富士野	しょう がい 福祉室 障がい福祉室	かげやま 景山
かすみそう	わたなべ 渡辺	しょう がい 福祉室 障がい福祉室	えのもと 榎本
千里丘デイサービス	たにぐち 谷口	うちほんまちちいきほけんふくしせんたー 内本町地域保健福祉センター	こまつ 小松

3 開催状況

平成28年2月～平成28年12月の期間（月1回）

4 今後の予定

医療的ケアを伴う児童の通学支援についての課題が残っているため、引き続き通学支援検討プ

ロジェクトを継続していく。（概ね月1回）

【部会名：介護保険移行課題検討プロジェクト】

1 これまで検討した課題への取組みについて

(1)

かだい 課題	しょう がい ふくし さー び す りようしゃ 障がい福祉サービスの利用者であっても、65歳になり介護保険の対象者 ようかいご ようしえんにんてい う もの (要介護・要支援認定を受ける者)になると、介護保険サービスの利用が優先と さげようしょ でい さー び す かつどうないよう ぎやっ ぷ されている。「作業所とデイサービスの活動内容のギャップ」、「サービス移行に いちわりふたん そうだんしえんせんもんいん けあまねーじゃー ひ つ よる一割負担」、「相談支援専門員からケアマネージャーへの引き継ぎ」、「高齢者 かんけいきかん しょう りかい とう さまざま かだい あ の関係機関における 障がい理解」等、様々な課題が上げられる
とりく 取組み	まずはプロジェクトチームメンバーで、介護保険サービスに移行した事例等を つう かいごほけんいこう かん かだい きょうゆう 通じ、介護保険移行に関する課題を共有。
ひょうか 評価	

2 部会の構成メンバー

きたせんりいわき 北千里以和貴	いなば 稲葉	とうじしゃぶかいじゅんぴかい 当事者部会準備会	ほそだ 細田
◎ こすもすすいた コスモス吹田	ふじの 富士野	い こたにちいきほうかつしえんせんたー 亥の子谷地域包括支援センター	きたがわ 北川
○ あおぞら	いとう 伊藤	せんりNTちいきほけんふくしせんたー 千里NT地域保健福祉センター	もりた 森田
○ だいひゅーまん 第1ヒューマン	ふじい 藤井	しゃかいふくしきょうぎかい 社会福祉協議会	はせがわ 長谷川
きらめき	ぬのはら 布原	しょう がい ふくしつ しきゅうけつてい 障がい福祉室 (支給決定)	なかい 中井
いこだにでいさーびすせんたー 亥の子谷デイサービスセンター	ますだ 益田	しょう がい ふくしつ じむきょく 障がい福祉室 (事務局)	かげやま 景山
あすーる吹田	きくはら 菊澤	しょう がい ふくしつ じむきょく 障がい福祉室 (事務局)	にしもと 西本

◎リーダー ○サブリーダー

3 かいさいじょうきょう 開催状況

へいせい ねん がつ にち もく だい かいかいぎ かいさい
平成28年12月22日（木）第1回会議を開催。

こんご かいさい ねん かい げつ かい
今後の開催：年4回（3か月に1回）

4 こんご よてい 今後の予定

きょたくかいごとうさーびす かだい きょうゆう おこな
居宅介護等サービスにおける課題の共有を行う。